

祭りを用いた河川空間再生

祭礼イベントの常態化と都市水辺の賑わい形成に関する研究

背景

祭り

祭り・行事の規模縮小

継続の困難さ



かつての賑わいの喪失

河川空間

川沿い歩道の狭さ

護岸と水面の高低差



親水性の低下

大垣

水の都 舟運の拠点 ▷ 地域の高齢化 車の発展

コンセプト

祭りを日常化する空間により、人の滞留と関係性生まれる河川空間をつくる。

手法

- ・遊歩道の整備
- ・祭り「見る」「見られる」の関係を取り入れる

利用者

日常利用：地域住民
非日常利用：観光客、学生、アーティスト

研究の構成

I 研究の概要

1. 背景 2. 用語の定義 3. 目的 4. 位置付け

II 設計条件の整理

敷地計画、コンセプト

III 設計手法

遊歩道、「見る」「見られる」

IV ダイアグラムの提示

V 設計提案



夜間の様子。



橋の下にも照明を取り付け、またの新たなシンボルとなるように設計。



屋根を構成する集成材のリズムが、日本建築に固有の繊細さを空間に与えている。



—— 橋は橋を支える支移として構造的に組み込まれ、河川上の動線を成立させている。



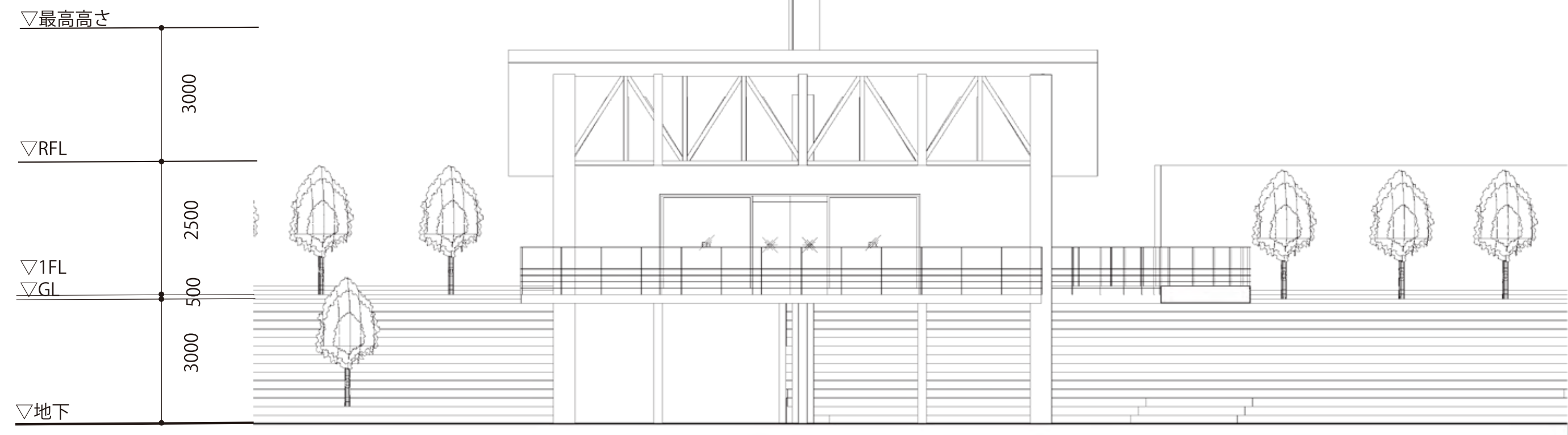
集成材や襖子による日本建築的な内部空間に、縁側から着想したテラスを盛り、内外が緩やかに連続するシェアラウンジ。



展示や活動を通して、地域文化を拠点とした交流と学びを受け止める文化交流スペース。

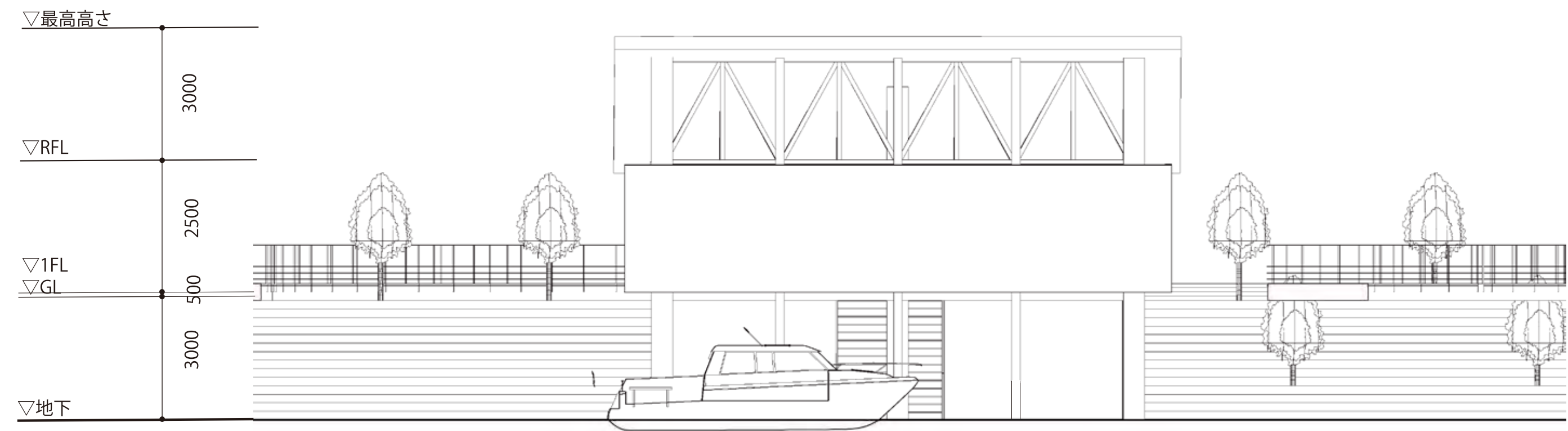


橋や遊歩道から橋を捉え、通過する人と滞留する人の間に〈見る／見られる〉関係が生まれる。



シェアラウンジ東立面図

5000mm



文化スペース西立面図

5000mm



橋を中心に動線と行為が緩やかに集積し、日常の河川空間が祭りの場へと読み替えられる。



河川空間に開かれ、人の滞留を受け止める日常的な居場所としてのシェアラウンジ。



日本建築的な内部空間をガラスのボックスで覆い、透透性によって現代建築との融合を図った文化交流スペース。



動線や居場所の整備により、人が水辺へと近づき、滞在する河川空間を示す。



敷地

定義

分析

大垣市水門川周辺は中心市街地に位置しながらも、河川空間が十分に活用されていない。

一般的祭りの定義

1. 信仰
2. 感謝
3. 祝祭
4. 共同体の儀礼

祭りの精神とは

1. 感謝・祈り
協働・伝統の共有
2. 未来の意思、
つながりの維持

祭礼イベントの常態化の空間定義

1. 特定の日程や年中行事としてのみ発生する非日常的イベントを指すのではなく
日常の空間利用や都市活動の延長上
2. いつでも祭りへと転じうる状態が持続的に内包された空間

位置づけ

清溪川（韓国・ソウル） 親水空間再生の先行事例

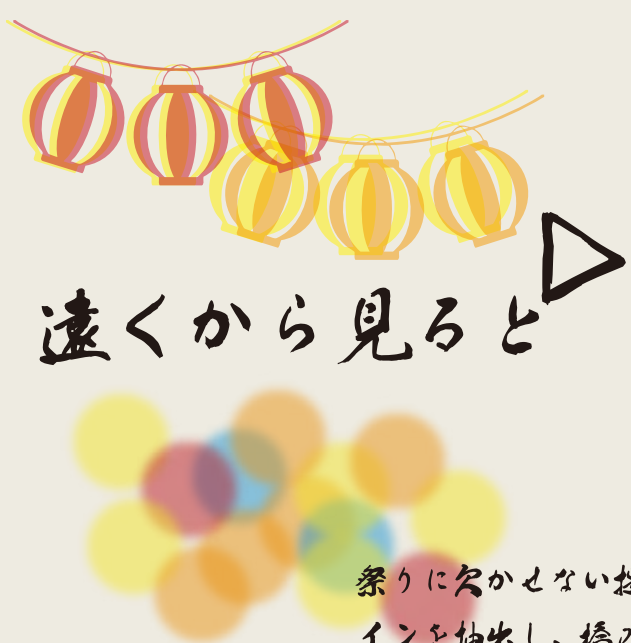
造り物祭礼（日本・熊本県） 中長期的祭り事例

親水性向上と祭りの
継続性を統合し、既
存事例には見られない
河川建築のあり方を提
示する。

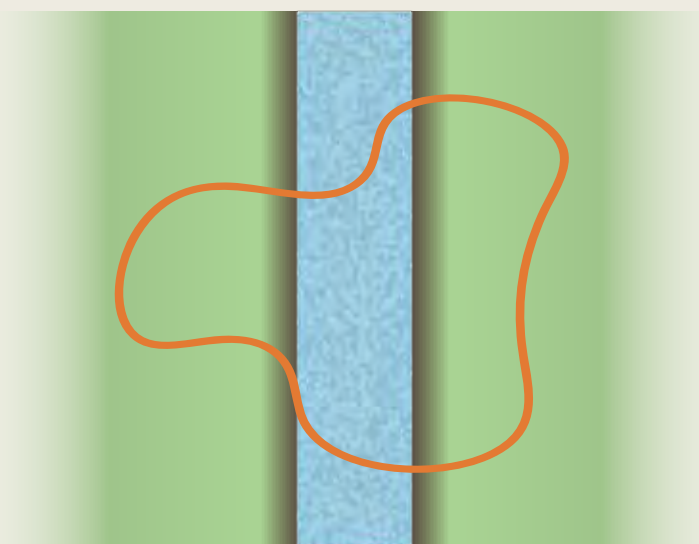
ダイアグラム

祭りの提灯

不規則な丸みを帯びた形状



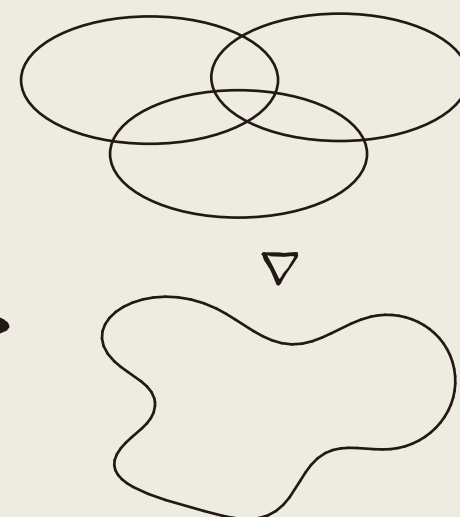
遠くから見ると



祭りに欠かせない提灯は、遠くから見ると小さな丸い光の集合として視覚される。そのアウトラインを抽出し、橋の形態へと落とし込んでいる。

三つ巴

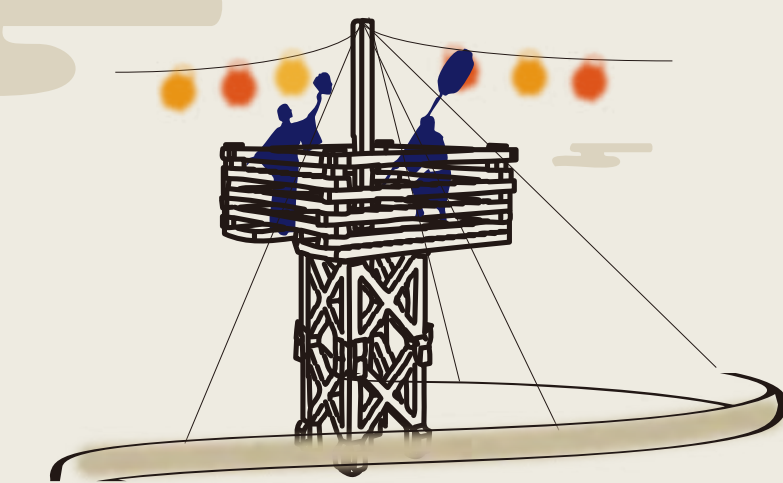
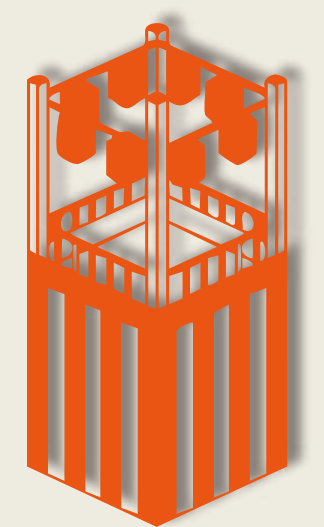
広場のかたち



祭りに用いられる太鼓に描かれる三つ巴の文様から構想を得て、円形スラブを連ねる構成を広場に与えた。芝で覆われた地盤の中に異素材の円を点在させることで、祭りの象徴性を足元の操作として読み替えている。

祭りの櫓

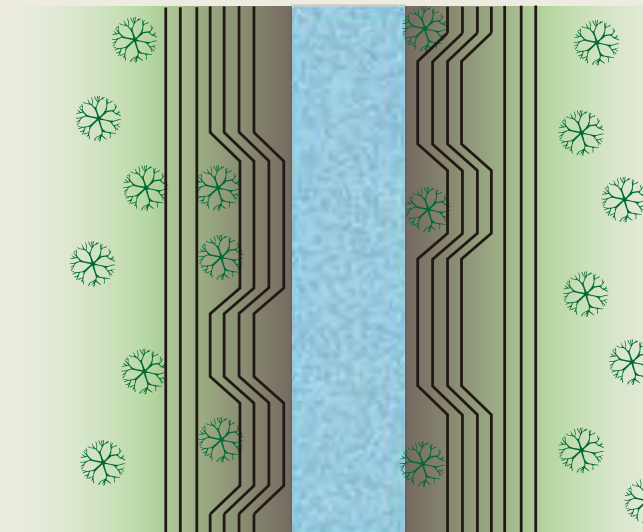
橋を支える構造



祭りの象徴である櫓をモチーフに、構造体としての支柱を計画の中心に据えた。象徴性と支持機能を兼ね合わせることで、祭りの記憶を橋の構造として定着させている。

浴衣の柄

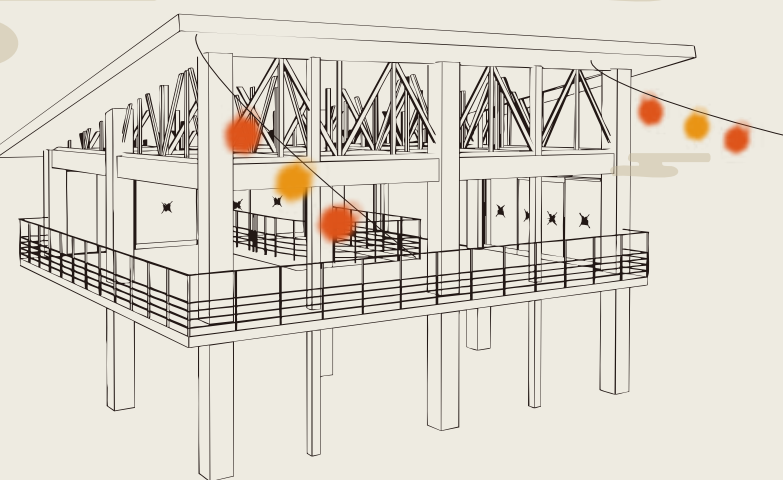
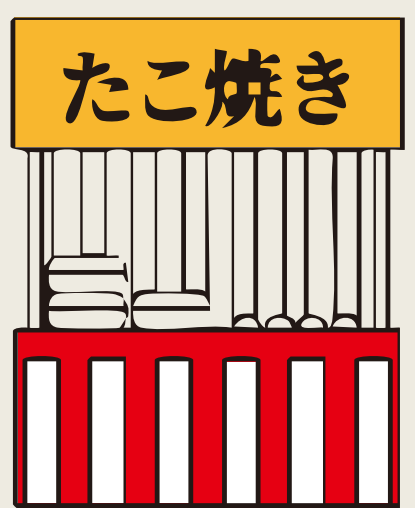
水門川沿岸



川沿いの護岸を緩やかな段状構成とし、腰掛けや滞留が可能な空間として再編した。踏み面を部分的に拡張した滞留部を幾何学的に配置し、和文様に見られる反復的な構成を、河岸の断面操作として読み替えている。

祭りの屋台

建物のかたち



屋台の構成を参照し、矩形のヴォリュームと斜めに挿かる屋根によって沿岸に二棟の建築を配置した。仮設的な佇まいを固定化することで、祭りの一時性を日常風景の中へと転写している。

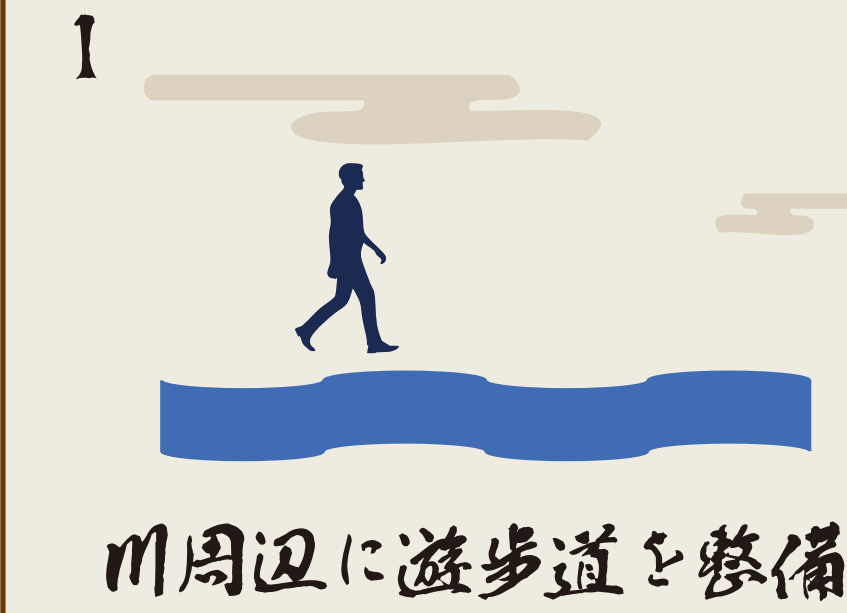
祭りボキャブラリー

物的要素

人の行為的要素

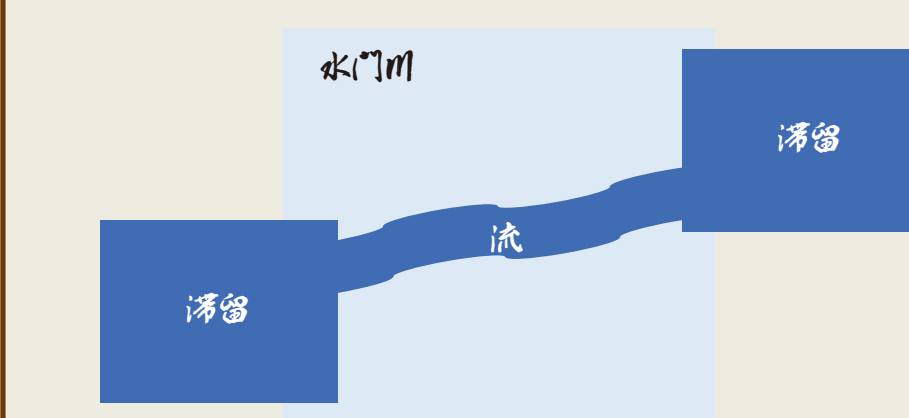


配置ダイアグラム



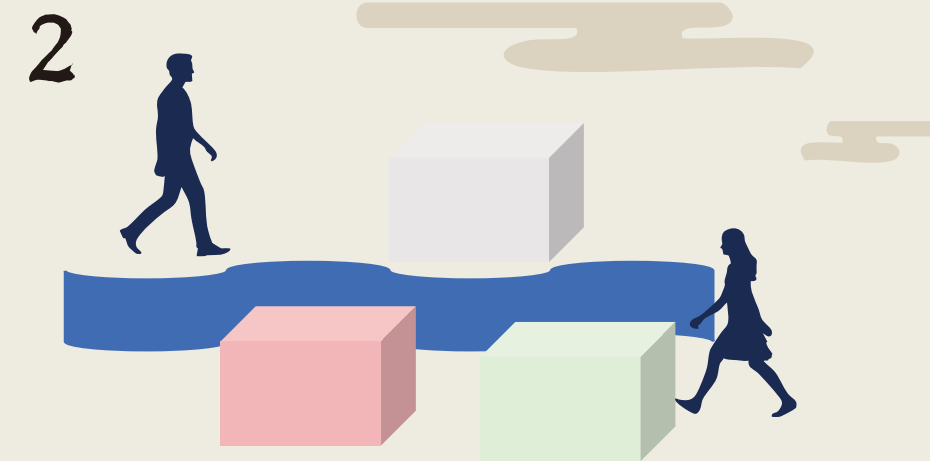
川周辺に遊歩道を整備

2



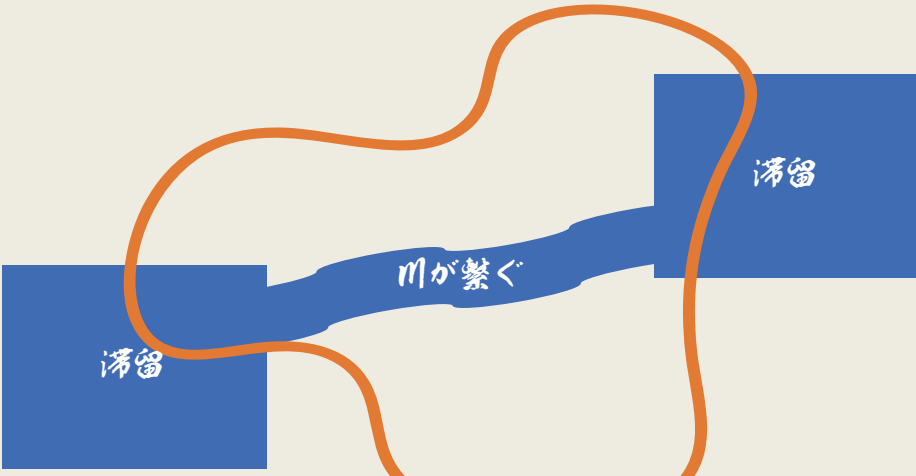
上から見た様子

2



川に来る目的の箱をつくる

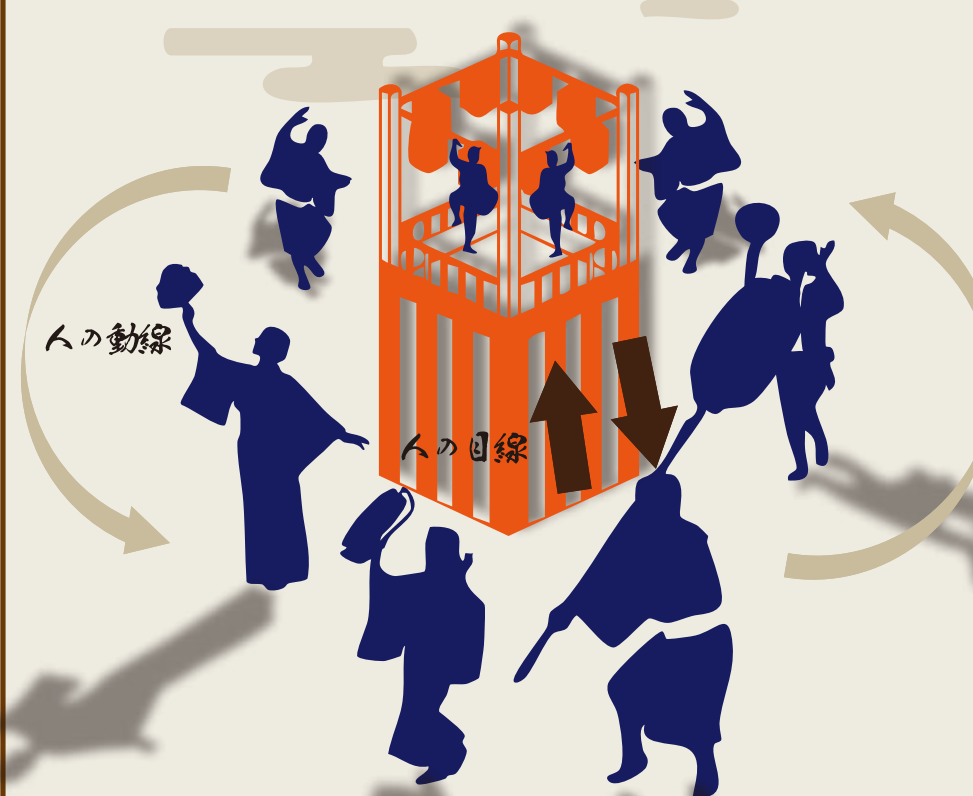
3



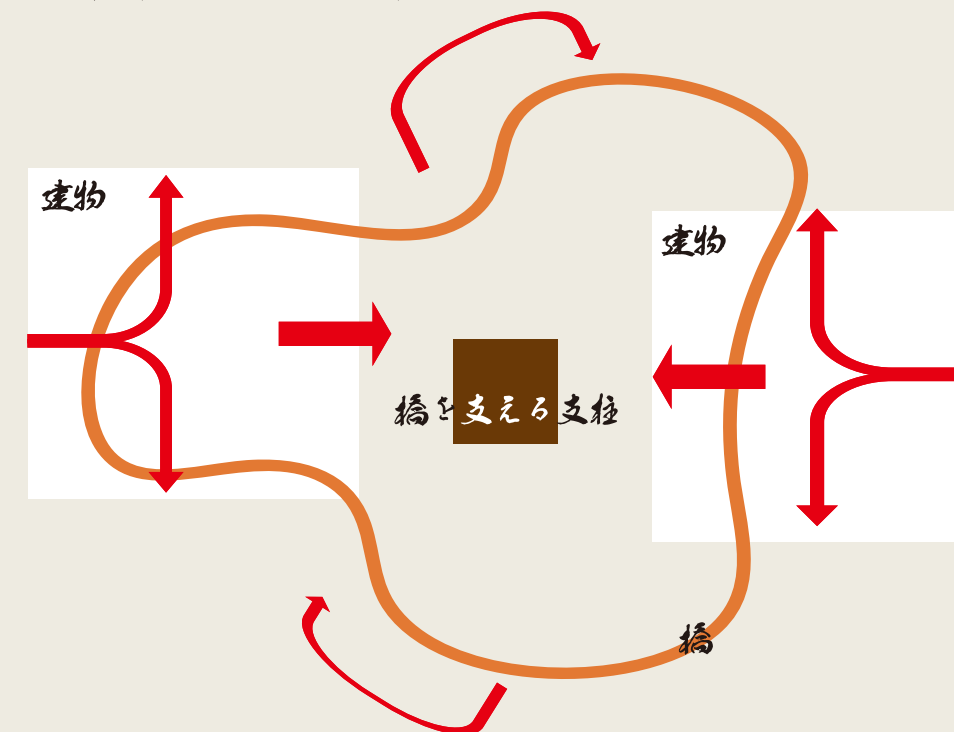
人が渡るための橋をつくる

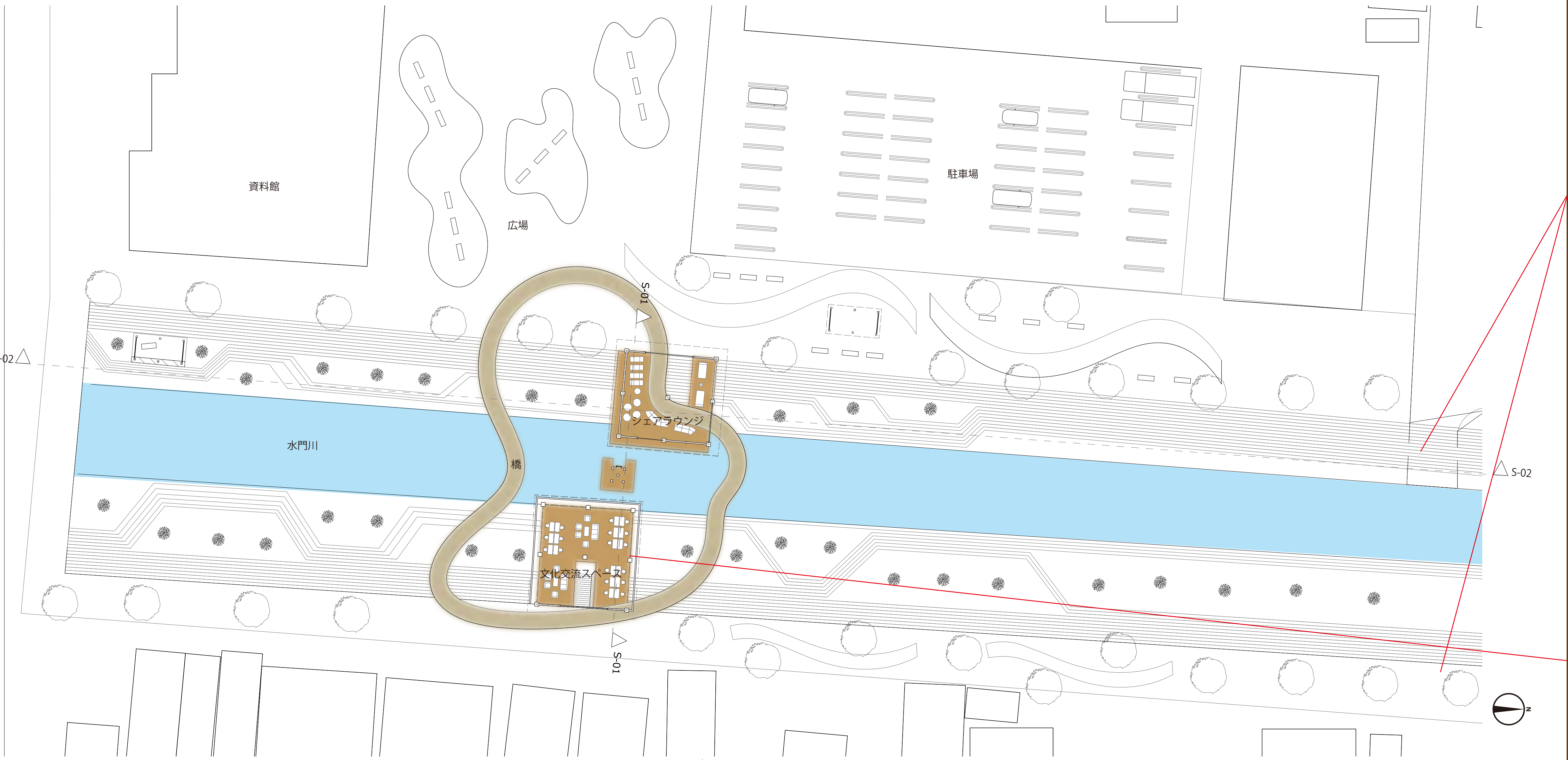
動線ダイアグラム

祭りでは、櫓を中心に人が回遊し、櫓上と周囲との間に「見る／見られる」関係が生み出される。

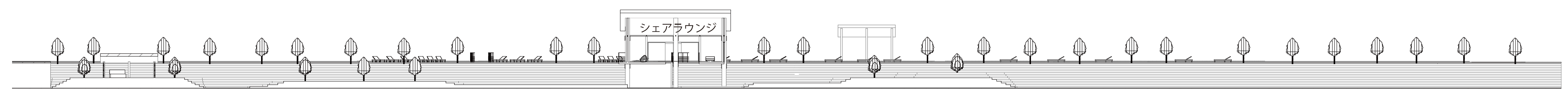


設計では、橋と周辺建築の動線を重ね合わせることで、祭りにおける反復的な回遊行為を空間化した。建築を周回するように橋を配置し、さらに建築と橋を交錯させることで、歩行のリズムや視線の反転が連続する動線構成をつくり出している。これにより、祭り特有の高揚感や身体的な没入感を日常の中に読み替えている。

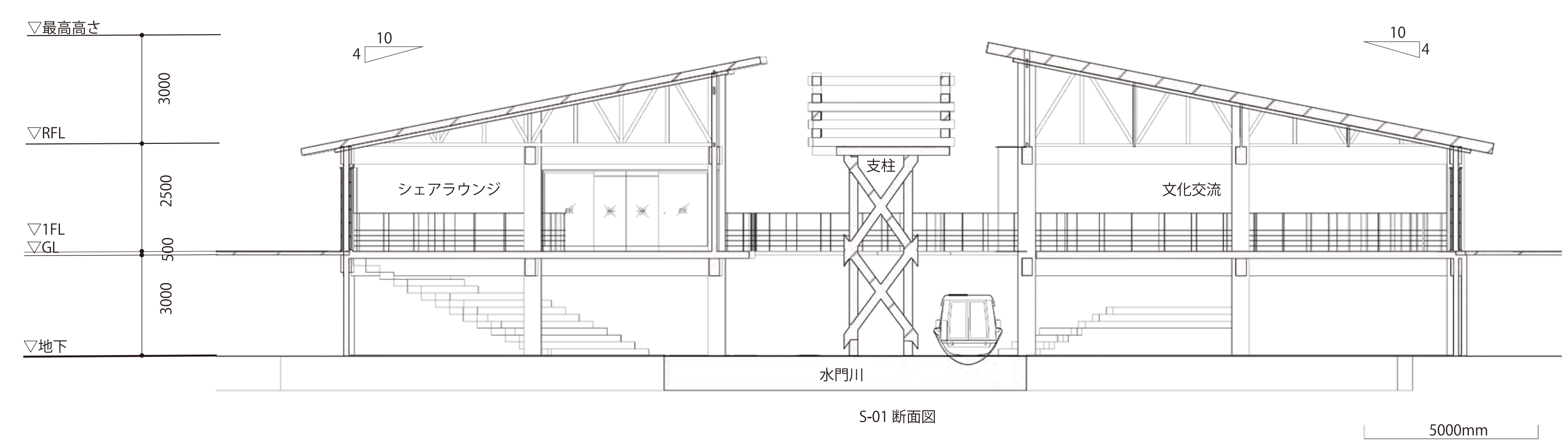




配置図兼 1FL 平面図 1:300

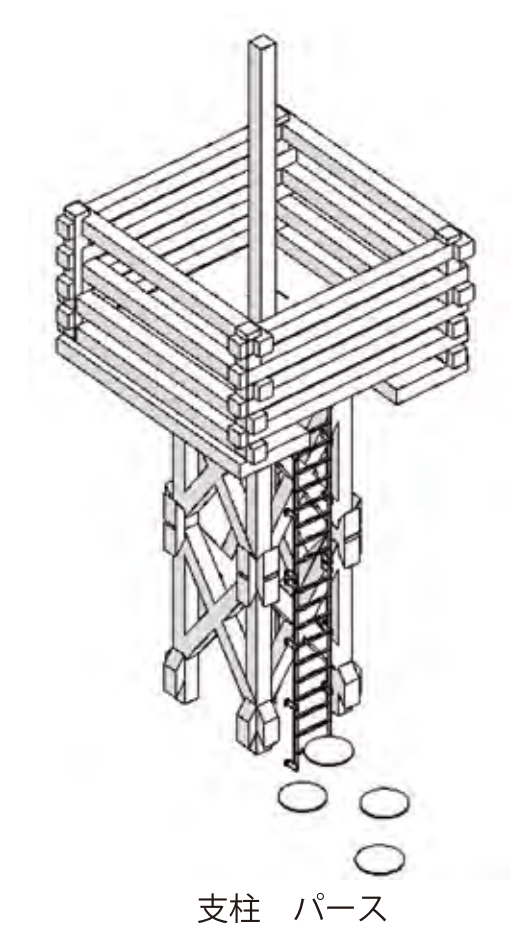


S-02 断面図 1:300

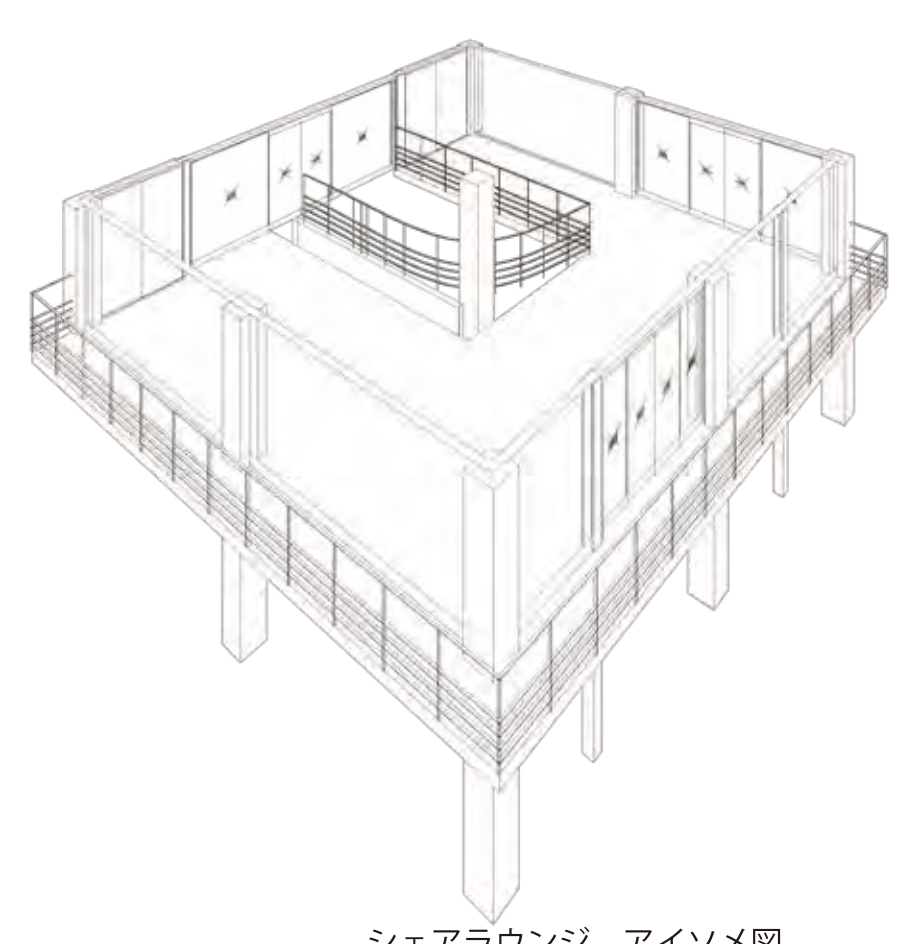


S-01 断面図

5000mm



支柱 パース



シェアラウンジ アイソメ図



地下道路パース / 道路の地下化によって交通を整理し、河川空間に歩行者主体の遊歩道を確保した。



建物 移断面パース / 鉄骨構造の柱に木を叠ね、木造建築のような空間表現を与えた。